

多様化していく人種への対応（学校アンケート）

学校名	日本語の話せない (話せなかった) または授業に支障 のある児童・生徒数	現状の対応	今後の課題
第一小	0人	なし	日本語を理解していない家族との意思の疎通。宗教上の文化の違いに対する対応。
第二小	1人	・保護者が教室に入り、通訳や支援を行っている。 ・市教委が東青梅センタービルに開設している「日本語教室」の利用を促している。	・他者理解と世界平和の精神が一層求められる世の中になる。 → 対応していく。 ・日本語の定着度によるサポート体制。 ・多文化との折り合いをどう付けていくか。(宗教的な部分など...)。 ・保護者が話せない、文化が違う、等の理由によるコミュニケーションの困難さ。
第三小	1人	なし ※ 学校としてはなかなか特別な対応ができない現状がある。	外国人が親の児童は確実に増えている。今後授業に支障がある児童も増える可能性は高い。 他区市のように、日本語指導の巡回指導員が必要になると思われる。
第四小	0人	担任や管理職による個別指導。	宗教の違いによる、日常生活上の配慮。(イスラム圏の児童に対する給食の対応、文化の違いによる生活習慣) 英語が通じない国の保護者に対する、コミュニケーションの取り方。 各市区町村単位の日本語指導学級(通級)の設置
第五小	1人	毎年、7月の1か月間、イギリスから短期で編入学するため、本人の不自由感はあるが、特に対応していない。むしろ、他の児童に、英語を学ぶよい契機となっている。	今は問題ないが、今後、外国人の流入などで外国籍の児童が増える可能性は高まってくる。(日本語指導教員に対する都の基準は厳しく、活用できる状況にない。)
第六小	0人	なし	言葉が通じないということが一番の課題になる。児童、保護者との関係構築のために通訳の確保が重要になってくる。
第七小	0人	なし	語学指導の対応を取り入れる。
成木小	0人	(記載なし)	他地区では、中国からの1人の転入生に対し、1人の補助員が付いていました。全く日本語が話せない状態でしたが、1年後は補助に入らずも定期考査等自力で受験できるようになっていました。本人の努力と家庭の協力もあってのことですが。授業をやるものとしては、補助員の存在は心強かったです。
河辺小	2人	・特別支援教育支援員が、対象児童に週1時間、国語を中心に指導している。	・指導に関わる指導書やテキスト、教材の購入が必要である。
新町小	2人	学級担任がゆっくと分かりやすく対応したり、聴いたり個に応じた対応を行っています。以前は、学習生活支援員の方に週2時間くらい個別に日本語を学習する対応を行いました。	対応できるよう教員の増員配置が必要であると思います。
霞台小	1人	学校としては、対応していないが。継母に当たる方が、日本語を教えてください、日常会話ができる程度で転入してきた。	言語でのコミュニケーションがとれないことが想定される。児童へのサポート及び親への連絡などを行う通訳の派遣が必須である。 他の自治体では、行われているところもある。
友田小	0人	なし	児童より、日本語が話せない保護者が増えている。学校からのお知らせや相談・報告が通じないこと(誤解されることも含めて)があり困っている。
今井小	0人	なし	「日本語が理解できない場合のコミュニケーションをどうしていくか。」 ・児童本人の日本語習得のための体制作りが必要である。 ・学校と保護者が、児童のことについて話し合う場合、言葉の壁があり、児童の課題を伝えることが難しい。(特に特別支援が必要な児童であった場合、専門的な知識もあり、守秘義務を厳守できる立場の「通訳」が必要) ・保護者が日本語を理解できない場合、児童本人はほとんど日本語を覚えていくため、児童と保護者間の溝が深まったり、学校からの連絡を児童が都合よく保護者に伝えたりして、問題が複雑化していくことが想定される。

学校名	日本語の話せない (話せなかった) または授業に支障 のある児童・生徒数	現状の対応	今後の課題
若草小	1 人	<ul style="list-style-type: none"> ・担任が指導の工夫の中で対応している。 ・学習支援員が配置できる場合はつける。(低学年のみ) ・通知票の現地語訳を依頼している。(市役所) 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭に戻っても日本語環境ではない場合があり、家庭の日本語習得の意思が希薄。(改善に向けた行動不足) ・基礎的な日本語会話ができないと日常の授業では厳しい面がある。対応するためには人的な配置を確実にして日本語学級などを整備する必要がある。都では5人以上外国籍児童が在籍している場合は、日本語加配の申請ができる。ただしそれ以下ならいないかということではないので、定数として配置などの制度の充実が必要。
藤橋小	0 人	なし	<ul style="list-style-type: none"> ①保護者及び児童・生徒の日本語教育や学習支援を含め、学校(行政)側で日本語教室や日本文化理解(学校生活含め)等への支援が必要である。 ②他市にあるような日本語教室(通級指導学級)の設置が望まれる。
吹上小	0 人	なし	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、他人種の流入は想定され、多くの関わりをもつようになると思う。授業だけでなく学校生活全般に大きく影響する。日本語の話せない児童・生徒や保護者とどのようにコミュニケーションをとっていくのか課題である。
第一中	0 人	なし	個に応じた日本語指導が必要になると考えます。
第二中	0 人	なし	日本語指導の関係機関との連携
第三中	0 人	(記載なし)	生活習慣の違いなどから、不登校傾向になってしまう生徒の割合は高いと感じる。家庭環境がしっかりしていないことも多い。学校に迷惑をかけることはないが、個人の問題として不安が多い。地域からの支援や近隣との交流が大切だと感じる。
西 中	1 人	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中では、日本語での授業のみで、支援員はいない。 ・ご家庭で、福生の日本語支援学校に通っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語を話せない生徒には、日本語を理解できるように別プログラムで指導する体制が必要。 ・授業の中では、場面に応じて日本語と母国語をサポートできる支援員が必須。
第六中	0 人	○本校にはアメリカ人とのハーフの生徒が在籍しているが、日本語の細かな点を理解することができていない。現在は、中学3年生で受験があるために、国語の勉強(漢字や長文読解など)を個別指導で実施している。普段の会話などは問題ないが、文章問題や難しい漢字には対応できていない現状がある。	○言語の問題がある。英語で会話できればよいが、他の言語(最近では東南アジア方面が多い)の場合はなかなかコミュニケーションが取れないケースが多い。また、生徒以上に保護者とのコミュニケーションが取れない場合が多いので、市(例えば生活保護、医者や病院、ゴミだしなどの生活全般)からのサポートが必要である。また、学校の集金の件などを理解できないなどの問題があり、保護者に説明できる通訳の方がいてほしい。(行事等の参加費が支払われないケースがあり、困ることが多い)
第七中	0 人	なし(現在在籍がないため)	来日時期によって、日本語の知識に差がある。とくに日本語が理解できない生徒に対しては日本語の指導者(生徒が使用していた言語を話せる指導者)が一定期間配置されないと授業をはじめ、学校だけの対応は難しい。また、中学校の場合、卒業期の進路選択に課題がある。とくに日本語を習得していない生徒に関しては進学も就職も難しい。
霞台中	0 人	なし	これからの社会において当然起こりうる現象である。様々な人種や言語に対しても偏見や差別がなく、学級や学校に受け入れる体制を整えていくことが急務である。現在籍生徒には学活や道徳、他の教育活動においても指導していくが、異文化の生徒に日本の言語や文化、習慣を教えられる人員の配置が必要である。そのまま教室に受け入れても、交流することが困難なことが予想され、それが偏見や差別、さらにはいじめ等につながる可能性も考えられる。
吹上中	0 人	・対象生徒がいないため、なし。	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語指導員が各校に配置されていない。 ・学校に派遣される通訳者が少ない。通訳できる言語の種類も少ない。 ・保護者・生徒とのコミュニケーションを円滑に行うためには、教員に異文化理解について助言する専門家が必要である。

学校名	日本語の話せない (話せなかった) または授業に支障 のある児童・生徒数	現状の対応	今後の課題
新町中	0 人	・数年間上記のような生徒はいなかった。外国籍の生徒はいるが入学以前に日本語を習得していると考えられる。	・子供の日本語の習得は時間があればどうにかなるが、保護者の中で日本語が通じない人が多数いる。
泉 中	4 人	なし	①通訳をお願いできる人材を把握し、市で管理し、必要に応じて学校へ派遣できるようにするシステムの構築。 ②そのような方々を受け入れ、支え合い、認め合う心の涵養。 (市民は児童生徒に対する) ③来られた方々が相談できる窓口と、それらの方々が活躍できる交流の場の企画運営。 ①②③いずれも青梅市は大変遅れており、不安を感じています。先日の保護者を含めた面談を行う際、私の人脈を通じて他市から通訳に来ていただくようなことができました。市役所に専属部署を立ち上げ、様々なアイデアを活用して積極的に進めていく必要を痛感している。
東小・中	0 人	なし	コミュニケーションの困難な保護者の同意の難しさ、文化の違いによる水泳指導における配慮の必要性など
合計	14 人	—	—

◎ 日本語の話せない（話せなかった）または授業に支障のある児童・生徒数 小・中別

区分	人数	学校数	備 考
小学校	9 人	7 校	16校中（東小・中除く。）
中学校	5 人	2 校	11校中（東小・中含む。）
合計	14 人	9 校	

(参考) プール

千葉県佐倉市

17.5 万人 103 平方メートル

調査委託

「佐倉市学校プール・市民プール再編に向けた調査業務委託 報告書」

平成 31 年 1 月 佐倉市

三重県松阪市

16.3 万人 623.58 平方キロメートル

委員会

「松阪市立小学校プールのあり方に関する答申書」平成 28 年 11 月

松阪市立小学校プールのあり方検討委員会

全 15 ページ

(参考) 外国人児童

静岡県磐田市 公立学校の底力 志水宏吉～ちくま新書より

17.6 万人 (2007)

外国人 9,600 人

なかよしワールド (サポートクラス)

多文化交流センター「こんにちは」

三重県松阪市 時報市町村教委より

外国人 4289 人約 2.6%

小中学校在籍外国籍 341 人

初期適応教室「いっぽ」教室

就学前支援教室「ふたば」